



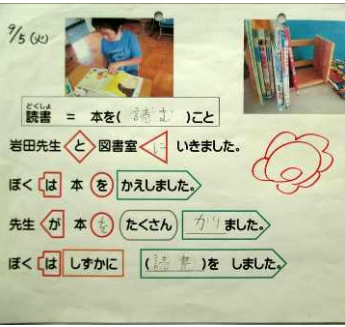
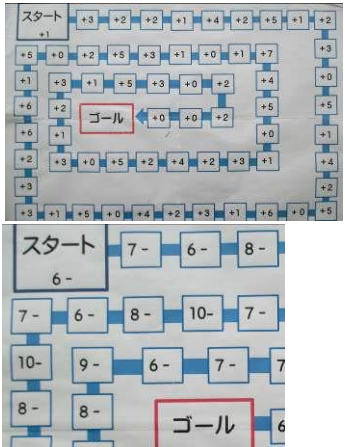






実践教材・教具紹介一覧表



松山聾学校

番号	教材・教具名	紹介メモ
①	<p>吊り橋</p> 	<p>絵本に出てくる「吊り橋」を設置し、高いところにある「揺れる」というイメージを持てるようにした。劇遊びをしながら時々注目することで、高さや渡るときの気持ちを想像し、演技する幼児もいた。(幼稚部)</p>
②	<p>ペンギンの水槽</p> 	<p>砥部動物園にあるペンギンの水槽に見立て、校外学習の事前・事後学習で使用した。塩ビパイプとジョイント、透明ゴミ袋、ブルーシート、ペンギンのぬいぐるみを使っている。幼児の背より高い位置にあるため、下にもぐってペンギンを見上げていた。(幼稚部)</p>
③	<p>「おおきなかぶ」(A・トルストイ 福音館書店)の大型絵本</p> 	<p>幼稚部4歳児の学級保育で、劇遊びにつなげるための教材として使用した。画用紙に拡大したイラストを貼った大型絵本を用意しておき、保育の中で読み進めながらせりふを貼り足していった。「うんとこしょ どっこいしょ」などの決まっているせりふや、幼児が発言すると予想されるせりふは事前に短冊に書いておき、読む直前に本に貼って、幼児と一緒に読むようにした。また、登場人物の気持ちや、どんなことを発言しているのかなどを幼児に問い掛け、幼児から出された意見をその場で短冊に書いて貼るようにした。劇遊びが好きな幼児の多い学級であるが、登場人物たちの気持ちやせりふを考えながら読むことができたことで、その後の劇遊びでも役になりきって、せりふや動きを工夫しながら演じる姿を見ることができた。(幼稚部)</p>

<p>④</p>	<p>音読用リライトテキスト</p> 	<p>読める指文字と平仮名が十数文字で、日本語でのやり取りに慣れていない状態で入学してきた小1の児童の国語、算数、道徳で使用している。教科書の文の横に手話のイラスト(写真)をつけたもの。最初に、指文字+口形(口話)で読んだ後、日本語対应手話で読み、文意をつかむ。最近では、指文字読みをせず、手話のイラストを見て意味を考えながら(口話で)読んだり、教科書を見て、分からないところだけ手話のイラストを確認しながら読むようになってきている。(小学部)</p>
<p>⑤</p>	<p>言葉のカード綴り</p> 	<p>新出語彙や児童が知らないと思われる言葉を、その場で付箋に書き、口形記号を付けて読み方(言い方)を確認し、簡単な絵や手話のイラストを描いて意味を説明している。毎日自宅に持ち帰り読む(話す)練習をしている。学習した言葉や話し方を思い出せないときに、自分でファイルをめくって確認するようになってきた。(小学部)</p>
<p>⑥</p>	<p>ことばじてん</p> 	<p>語彙の拡充のために、新しく知った言葉を辞典にまとめている。新しい言葉に出会ったときは、教室の黒板の左スペースにメモをして、言葉が日常的に目に入るようにしている。また、イメージが湧きやすいよう、イラストも隣に貼っている。月末には、それらの言葉を「ことばじてん」に書いてまとめる。イラストや説明書きは教師が準備しておき、児童が意味を読んで確認した後、言葉を書き込んでいる。書き込んだ後には、クイズ形式で言葉や意味の確認をする等、やり取りをするようにしている。また、3年生で学習する国語辞典の引き方にもつながっていくように、「あ」のページや「か」のページのように、五十音順にことばのページを作っている。(小学部)</p>
<p>⑦</p>	<p>校外学習での提示物</p> 	<p>校外学習中、児童は、教員の手話と口形を見て話の内容を読み取ることが多い。知っている言葉や手話が少ない児童も、見通しを持って学習に参加できるよう、スケッチブックを活用した。行先のこと、当日の予定、休憩中にする事等について、その都度文字とイラストを提示しながら説明するようにした。(小学部)</p>

<p>⑧</p>	<p>できごとプリント</p> 	<p>正しい助詞の使い方の練習、語彙の拡充、学習の振り返り等を目的に、日々の出来事を、毎日写真と文でまとめている。名詞や動詞等を児童が考えて書き込み、文を完成させるようにしている。イメージが湧きやすいよう、イラストもヒントとして載せている。また、必要に応じて江副文法を取り入れ、視覚情報によって助詞の使い分けや品詞の種類の違いについて理解できるようにしている。学校で教師と読んで確認し、家庭でも音読してくることで、定着を図っている。児童も「できごとプリント」を楽しみにしており、自分から教師に作ってほしいと伝えることが多い。(小学部)</p>
<p>⑨</p>	<p>計算すごろく</p> 	<p>計算が苦手な、書字に時間が掛かる児童に対して、書字の負担を減らし、楽しみながら多くの計算問題に取り組めるよう、計算すごろくを活用している。足し算すごろくでは、さいころの出た目に、マスに書かれた数を足した数だけ進む。引き算すごろくでは、マスに書かれた数から、さいころの出た目を引いた数だけ進む。さいころは、ドットのみと数字のみの物を使い分けている。多くの計算問題に反復して取り組むことで、計算が早く正確になってきている。(小学部)</p>
<p>⑩</p>	<p>季節・行事の掲示</p> 	<p>栽培技術の向上により年中食べられる物が増えている。また、日本の伝統的な行事食離れも進んでいる。四季の旬の食べ物や、行事に関係する食べ物についての掲示を作成し、季節を感じられるようにしている。実物を展示し、実際に触れられるような機会も設けている。実物を見ることで、食べ物への関心が高まり、食材の名前を覚えたり、苦手な食材であっても食べてみようという意欲が高まったりしている。(小学部)</p>
<p>⑪</p>	<p>郷土料理マップ</p> 	<p>日本各地の伝統的な食文化についての理解を深められるよう、月に一度日本各地の郷土料理を給食に取り入れている。食堂に日本地図を掲示し、給食で提供した郷土料理の写真を貼り付けている。(小学部)</p>

<p>⑫</p>	<p>言葉・漢字のクイズ</p> 	<p>手話での表現は同じであっても、文字では異なる表現となる言葉が多くある。そこで、クイズ形式で楽しく言葉を覚えられるような掲示を作成している。(小学部)</p>
<p>⑬</p>	<p>マイガイドブック</p>	<p>職場体験の際に、自己の障がいを実習先の人に説明するために作成した。自分の聴こえの状態や、どんな支援をお願いしたいかについて載せた。作成を通して、自己の障がい理解を深めるとともに、支援の依頼の仕方について学習することができた。また、障がいがありながら社会で働くためにはどうすればよいかを知ることができた。(中学部)</p>
<p>⑭</p>	<p>ビブリオバトル用 ポスター、DVD</p> 	<p>読書に対する意欲関心を高めるために作成した。他者に自分が読んだ本を紹介することを通して、文字を追うだけでなく、しっかり読み込むことを目的とする。また、発表した様子を録画し、字幕を付けて毎年溜めている。これを活用することで、少人数学級でありながらも、様々な発表の仕方を見て、話し方の工夫を考えたり、他者と比較したりできる。(中学部)</p>

<p>⑮</p>	<p>クローズアップ技術 (清拭法版)</p> 	<p>理容において、技術姿勢は安全で正確な技術を行うため非常に重要である。その姿勢を効率良く身に付けるため、実技練習を行う際にすぐに確認ができるように、教科書を模した資料(オリジナル教科書)を模造紙で作成した。</p> <p>生徒以外の写真は教科書のもを使用し、姿勢写真の横には生徒自身の写真を並べて掲示することで比較しやすいようにした。動作手順や注意すべき点を拡大することで、それぞれの文章が確認しやすくなり、細かな手順の理解に結び付いた。また、姿勢を並列で示すことにより自分の姿勢を客観的に見ることができ、正しい姿勢を習得するための課題を見付けることができた。(高等部)</p>
<p>⑯</p>	<p>ハンドナビゲーション(清拭法版)</p> 	<p>使用済(カッティング練習後)のモデルウィッグをリサイクルし、実際の動作順序を書き入れた。生徒自身が書き入れることで順序や技術部位のイメージをつかみやすく、また、ヒトに近い(質感・形状)教材により、緊張感を持続させながらの練習が可能となり、効果的な技術習得につながった。(高等部)</p>